



# 四小だより

■よく考え学ぶ子 ■じょうぶでたくましい子 ■心の豊かな子

7月号

令和5年6月30日発行

新座市馬場3-6-1

048(478)3192

## イエナプラン教育の発想から

校長 岡野 信幸

梅雨のまっただ中で雨や曇り空が続いています。昨年のこの時期は連日猛暑日でした。しかし、子どもたちは毎日明るく、とても元気に過ごし、1学期の学習のまとめに入ろうとしています。

先日は個人面談へのご協力ありがとうございました。1学期のお子さんの様子について、担任からお伝えさせていただきました。良い点についてはぜひ褒めてあげてください。課題となる点につきましては、今後学校と家庭と連携して、改善していけるようにしたいと存じます。

間もなく夏休みを迎えますが、引きつぎご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

### イエナプラン教育の実践

4月の学校だよりではイエナプラン教育について書かせていただきました。ドイツで始まりオランダで広がった教育法です。学年・学級といった学級編制ではなく、異年齢のグループで構成されていることが特徴です。年下の子どもは、年上に優しく接してもらい、安心感を抱くことができます。それに対し年上の子どもは、下の子に頼られる機会が増えることで、責任感が強くなります。そして、自立学習・協働学習・探求学習など、個をベースにした学習が展開されます。異年齢の子どもたちが中心となって主体的に学ぶことができ、「コミュニケーション能力」や「問題解決能力」といった現代社会を生きる上で必要な能力を培うことができる教育法です。

### 四小ゼミでの取組

本校では3～6年生における算数の基礎学力の定着を図るために、四小ゼミという取組を行っています。ゼミは給食の時間の後半を使って、計算問題等を解く学習をしています。教務主任をはじめ管理職そして担任外教員が指導に当たっています。

それに加え今年度は、学年がひとつ下の子の学習の面倒を見てあげたい子を募集し、6年生を除く3つの学年で異年齢での学びを始めています。イエナプラン教育に近い学習形態となっています。

### 新しい発見が

その四小ゼミで、初めて見る光景が広がりました。

真剣に解き方を噛み砕いて説明している6年生とそれを聞きながら「そうか、意味が解った。」と言って、鉛筆を走らせている5年生。解答できたことをやさしく褒めてあげる5年生とうれしそうにしている4年生。

必然的に上級生は責任感が育つとともに、下級生は安心して学習を進めることができます。また、やらされているのではなく、主体的に学習する姿が見られます。そして、双方ともに自己肯定感や自己有用感が育っていると感じられる光景に驚かされています。



### 異年齢での学習 これから

本校ではすでに、特別活動において、異年齢集団によるなかよし遊びという活動を実践しています。そして、四小ゼミにおける異年齢での学びでも、少しずつ成果が感じられています。

異年齢での学習は、アイデア次第で様々な形での実践が可能です。これからは、1・2年生同士での生活科の学習や総合的な学習の時間での3年生と2年生の交流、学習した成果を下級生に伝える活動など、異年齢による学習を計画し、いずれはこれからの社会を生きる上で必要な資質や能力を培い、育みたいと考えています。

### 夏休みの課題について

例年どおり、各学年の発達段階に応じて、ワークブックやAI型ドリル(Qubena)、その他の自由課題等、夏休みの課題を出してまいります。自由課題等は興味関心に応じて、楽しみながら取り組んでほしいです。

また、ご家庭で答え合わせをしながら、お子さんの学習の定着の様子などもぜひ見てください。

なお、詳細については、夏休み直前に発行される、学年だよりをご参照ください。